

→28日午後11時頃には多くの避難者が来所し、避難所はいっぱいになりました。限りあるスペースで密対策の空間確保をどう行うか課題が残りました。



←住宅が浸水した新町地区の写真。住宅浸水は、床上・床下浸水合わせて町内全域で98軒に上りました。

←夜が明けると、堤防を越えそうな最上川の水位18m59cmや、住宅浸水、農作物被害、土砂崩れなど次々と明らかになりました。

→最上川の水が流入し、豊田地区にある上水道の水源地が浸水し町内ほぼ全域で4日間に渡り断水しました。



←1階部分がほぼ水没してしまった住宅もありました。町内外から多くの災害ボランティアにご協力いただき、残された泥のかき出しや水に浸かった家具の撤去などが連日行われました。



→断水のため、急きょ給水所を開設し近隣自治体や友好協定を結ぶ自治体の職員やボランティアスタッフ、自衛隊の方にも協力いただき、断水が解消した8月1日夜まで給水を行いました。

← 次のページでは、令和3年5月20日に改正された「避難情報に関するガイドライン」について解説します。



最上川 大石田観測所 観測史上最高水位 18m59cm の衝撃



7月28日(火)、降り続く雨による土砂災害発生への懸念から、町は午前11時30分に次年子地区に避難準備情報を発令し、午後には最上川の水位上昇が予想されたことから浸水の恐れがある地域を対象に避難準備情報、続いて避難勧告を、午後7時には避難指示を発令しました。



←降り続く雨による土砂災害発生への懸念から、次年子地区に避難準備情報を発令し、次年子ふるさと自然館に避難所を開設しました。令和2年7月豪雨では、町内の複数箇所で土砂崩れが発生しました。

→上流部の大雨で最上川の水位が上昇し、支川の水が流れない状態になると、行き場をなくした支川の水が氾濫し、浸水被害が発生します。浸水被害を最小限にするため、町水防団員や国土交通省の職員による昼夜を問わない内水処理が行われました。



←増水で川の水はひどく濁り、たくさんの河川ごみが流れ着きました。時折、流木などが大橋の橋げたに当たり鈍い音を立てていました。

→災害対策本部会議を随時開催し、今後の天候や水位予測などの情報を整理し、避難情報の発令に備えました。本部会議は深夜も行われました。

